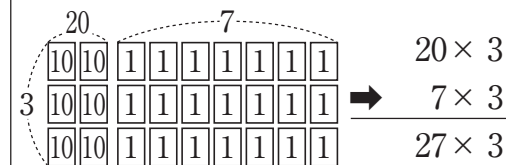


第10単元 かけ算の筆算(1)A

問題番号	配点	解 答	評価規準	つまずきと指導の手だて
①	60 (各5)	① 540 ② 280 ③ 4000 ④ 4800 ⑤ 72 ⑥ 156 ⑦ 450 ⑧ 376 ⑨ 806 ⑩ 2120 ⑪ 5562 ⑫ 2200	知技 何十、何百×1位数、2、3位数×1位数の計算ができる。	800×5のような計算も800を100が8こと考えれば、かけ算九九を使って計算できることに気づかせる。 筆算の原理が分かっていない児童には、計算のしくみを確認する。 $\begin{array}{r} 18 \\ \times 4 \\ \hline 72 \end{array} \quad \begin{array}{r} 10 \times 4 = 40 \\ 8 \times 4 = 32 \\ \hline 72 \end{array}$
②	10 (各5)	15×8=120 120こ	知技 場面をとらえて立式ができ、問題を解決することができる。	正しく立式できない児童には、場面の様子を絵や図、ことばの式や数直線などで考えさせる。
③	10 (各5)	207×6=1242 1242円		
④	20 (各10)	12×3=36 36こ	知技 条件過剰の場面から場面をとらえて立式ができ、問題を解決することができる。	正しく立式できない児童には、場面の様子を絵や図、ことばの式や数直線などで考えさせる。

第10単元 かけ算の筆算(1)B

問題番号	解 答(許容)	評価規準	つまずきと指導の手だて
①	つよし…7 みき…500、6 (順不同・完答)	思判表 2、3位数×1位数の筆算のしくみについて説明している。	図などを使って計算のしくみを振り返らせる。 
②	200、200、800	思判表 3位数×1位数の積の大きさの見当のつけ方を説明している。	日常生活の中でおよその数をよく使う場面を提示し、実際に計算する前に答えの見当をつけるようにさせる。その際、見当づけ(見積もり)の根拠を明確にさせるようにする。
③	① 2 ② 2 ③ 5	思判表 乗法の結合法則を用いて簡単な計算のしかたを考えている。	かけ算のきまりを使うと簡単に計算できることや、確かめに便利なことに気づかせ、繰り返し使っていく。

▶思考力・判断力・表現力の評価

評価	A	B	C
正答数	6問以上	5～4問	3～0問

▶主体的に学習に取り組む態度の評価

評価	A	B	C
選択内容	3項目とも意欲的である。	3項目ともおおむね意欲的である。	どの項目も消極的である。